



# まるざー

石垣市の女性と男性のひろば

## 八重山「女性の翼」の会結成

～21世紀の天空へ翼を広げともに羽ばたこう～



沖縄県主催の女性海外セミナー「女性の翼」で得た知識と体験をもとに会員相互の親睦と研鑽を回り、八重山地域の国際交流推進と女性リーダー養成など男女共同参画社会の実現に努めようと結成。初代会長には第1期生の大山トヨさんが就任。なお、県「女性の翼」は昨年で17期を数え、八重山地区からもこれまでに14人（内12人は石垣市）が研修に参加している。

No.13  
2001年3月

発行/石垣市総務部企画室女性行政係 〒907-8501 石垣市美崎町14番地 TEL 09808-2-1243(内136)

題字：仲吉八重

# 「いしがきプラン」推進市民フォーラム

## ◆男女共同で住みよい社会を◆

男女共同参画社会をめざして、去る3月14日午後7時から市民会館中ホールにおいて、いしがきプラン推進「市民フォーラム」が開催されました。

趣旨は女性と男性が共に参画し、職場や地域、家庭など様々な分野からの提言、意見交換を行い、いしがきプランに対する認識を高め、共に生き生きと暮らせるまちづくりを推進しようというものです。

フォーラムはまず始めに大湊長照市長が「男性と女性の知識と能力を結集し、21世紀のまちづくりをいかに進めていくかが大事」と主催者あいさつを行いました。

引き続き、沖縄国際大学非常勤講師の桃原一彦氏が「自分の意思を伝え活かせる社会づくり」と題して基調講演を行い、「意思決定機関にまだ女性の割合が少ない。自分の考えやアイデアを声に出して男女共同参画社会を築いていただきたい」と強調していました。この後、「共に生き生きと暮らせる社会を」をテーマにシンポジウムが開かれました。



味では反面教師的な話になると思いますが、勘弁してください。

私の妻も公務員で、一生懸命頑張っており、お陰さまで3名の息子に恵まれています。私は仕事以外に興味がない人間ですから、朝から晩まで学校にいました。学校に着くのが6時で、学校から帰るのが部活の指導や残務整理をしてほとんど8時ぐらいです。そして、寝るのが九時ごろですから、ほとんど子供と顔を合わせたことがありません。また、これまで3名の子供の出産に立ち会った事はありません。これはとってもつらかったですね。

波照間に単身赴任したときのことですが、あるとき久しぶりに家に帰ると、子供たちが母親の背中に逃げていくんです。子供たちはこの人はどこのおじさんだろうかという目で私をみてるんです。そのとき、これは大変だと、この調子で歳を重ねるとこの子は大変なことになるというのが、まず考えた事です。

それから、私は毎週土曜日帰ってくるたびに子供たちと一生懸命遊びました。そして、もっと係われないかということで、朝早く起き、妻に弁当をつくってもらい、バナナや白水に行き子供たちと朝食を取り、子供たちとの係わりあいを2年続けました。短い期間ではあったが何とか私の子育てができ、父親として挽回したという気持ちでした。

しかし、長男が1年生の頃、重いチック症状にかかりましたので、私の赴任先である波照間にわずか7カ月ではありましたが転校させました。子供と一緒に生活して、子供は1週間から2週間で良くなりました。大変、うれしかったです。

その後、石垣島に転勤になり、元の生活で帰りが遅い状況が続き、お父さんいつ家にいるの、と子供によく聞かれます。いろいろなイベントが土曜日、日曜日にありますので、仕事から子供と接する機会が少ないわけです。最近では子供も大きくなり部活等に熱中していますのでなかなか一緒に

### 講師及びパネリストのプロフィール

#### ●講師兼コーディネーター

**桃原一彦**：1968年南風原町生まれ

現在、沖縄国際大学、沖縄女子短期大学等において非常勤講師を務める。沖縄県女性問題懇話会委員、南風原町男女共生社会を創る懇話会委員 研究分野/地域社会学および若者のライフスタイルと文化研究

#### ●パネリスト

**國吉長秀**：(沖縄県立石垣少年自然の家 主任専門職員)

小学校の教師として、また派遣教育主事などの経験から職場、学校、家庭、地域での子育ての大事さを考える。

**波平昌子**：(ふくふく保育園園長)

保育の立場から、一人ひとりをつめる。女の子だから、男の子だからではなく、一人の人間として役割分担の大切さを！

**川満和美**：(熱帯果樹農家)

地域に支えられ、楽しい農業。30歳になったばかりの若夫婦から、60歳代の半ばを過ぎた年配の夫婦の仲間とともに、ささやかな夢を語り学習するなかからの農業経営を。

**玻座真保幸**：(石垣市建設部都市計画課、都市計画係)

昨年11月に2人目のお子さんが誕生し、ご自身の家事、育児への参画をとおして共働することの大切さを語る。

**國吉さん** 私がこれまで結婚して家庭を築き行動してきたことを話して見たいと思います。ある意

なる機会がありません。

自分の事がどうであったのか、家庭との係わりがどうであったのかというと、非常に後ろめたさを感じます。幸いなことに、子供たちは今のところ順調に成長しています。家庭では食器を洗ったり、洗濯物を干したり等の係わりを少々持っている程度です。

今日の桃原先生の話聞き、これから自分が変革できるかという自信はありませんが、その意識は持ちたいと思っています。嬉しいことに盆や正月はできるだけ家族全員で親戚回りをしています。豊年祭など大きい行事はなるべく家族全員で出るようにしています。子供たちが青年会の皆さんと係わりを強く持ち親しくさせてもらって親としても大変喜んでおり、子供の成長を楽しみにしています。

**波平さん** 私は真栄里で保育園を営んでいます。○歳児から学童までを、縦割り保育でひとつの家族のような生活をしています。その中で日頃、感じていることを私なりにお話させていただきます。

まず、毎日使う出席簿や卒園式の卒業証書の授与等では、男女に関係なく、入園の順に名前を記入しています。また、散歩のさいは男の子の子に分けず、年長児が年少児の手をつないで歩きます。ロッカーにピンクとブルーの色を塗り、名前も書いてありませんが、それぞれが自分の場所を選び、靴を置いていきます。この頃はおゆうぎ会のオペレッタ役に、男の子がロングスカートをはいておばあさんの役をやったり、女の子がひげを生やしたおじいさんの役を自ら進んでやり、とても満足していました。

それから年長児は月に1度、お料理会があります。まな板や包丁を実際に使って、いろんな食材に触れています。

幼い頃から食物に関心を持ち、男の子も女の子もエプロンをさっそうとつけてはりきってやっています。卒園児のお母さんから「お料理会はとても良かった。これからもぜひ続けて下さい」との声がありました。それは、そのお母さんが病気になった時、小学校1年生の男の子が「カレーを作る!」と、ジャガイモの皮をむき始めました。「保育園でもカレーは作ったことがあるから大丈夫!」と台所に立つ男の子の姿を見て、お母さんは大変感動したと話していました。

私は幼い頃から、男の子も女の子も分けることなく共に過ごし、さらに成長した姿を見て、嬉しく思いました。私の家庭では、夫は土木業に従事し、離島への出張も多いです。子供は、19歳の男の子と17歳の女の子がいます。保育園の大きな行事の前には、準備のために残業をしたりあるいは、家に持ち帰って作ったりすることがあります。

子供が小さい頃、家事が間に合わないときや私が疲れている時に、夫が食事を作ったり、お風呂、洗濯物をたたんだりと手伝っていました。園長になった今、夜の会合も多くなりました。子供が大きくなっても、夜は夫か私がどちらかがいることで、子供達に寂しい思いをさせないよう努力しています。



左から 國吉、川満、波平、坂座真 各氏

昔、男は外で働き、女は子供を産み育て家事労働に専念すべきである等、男女を固定的な枠組で考えてきましたが、私自身が働いたり子育てをする中で「それは、違う」やはり1人の人間としての姿を見ていくことがこれからの社会に大切なことではないかと感じました。

それから、保育園を営んでいくためには、園だけにとどまらず、社会にもっとめを向けることが必要ではないかと感じました。今年の正月の年頭に「お母さんは、今年はボランティア活動を学び、PTA活動も続けて生きたい」と話したところ、家族は「お母さんがそう思うんだったらいいよ」と返事をもらい、とても嬉しくなりました。

女性が社会に参画していく時、どうしても悩むことは家庭（夫や子育て）のことです。保育園を利用するお母さん達を見ていても感じとれますが、女性の自立には、家族やその周りの方の理解が必要になってきます。

男女共同参画社会実現に向けて私にできる事はなんだろう、と考えたとき「今の職場を大事にしていきたい」それはお母さん達が安心して子育てができるように、また、働けるようにしたいからです。自分自身が子供や親達と交わる中で、少しでも学べるからできるからです。

最後に、子供達には保育する中で、役割分担の大切さを伝えて「男や女」ということじゃなくて、一人の人間として大地に生きるたくましい子に育ててほしいと思います。

**川満さん** 「共に生き生きと暮らせる社会を」というテーマを私自身の身に置き換えて考えたとき、私の周囲には生き生きと暮らしている方々が実に多いことに気づき、嬉しくなりました。

私達家族は、ただただ自分の畑の一面に住みたいというだけの理由で、大川から嵩田へ移り住みました。

大なり小なり農業に関わりをもち、嵩田地区に住んでいるということだけが共通点で、30歳になったばかりの若夫婦から60代も半ばを過ぎた年配のご夫婦までの、私達夫婦を含めた11組の夫婦がその仲間です。

各家庭を持ち回り制で、互いに料理を持ち寄り月に一度の夫婦同伴の集いがもう10年も続いています。会の名前は「ワールドゆんたく会」、おしゃべりが尽きないということと、視野を常に世界に向けてという意味が込められています。

普段は特にテーマもなく、和気あいあいとゆんたくに興じているだけなのですが、時々ゲストを招いて、講話をしていただくこともあります。

去年は、農林水産省が企画した「21世紀における農村地域の将来像に関する懇談会」の委員として全国からわずか7名の農業経営者が選ばれましたが、その中にゆんたく会の女性が選ばれ、4度にわたる座談会に出席し、農村からの意見を発信してきてくれました。

また、つい先月には、全国果樹技術・経営コンクールにおいて、ゆんたく会の男性が県内からは初めてという理事長賞に輝きました。

さて、活動の場を着々と広げている仲間達に刺激を受けながら、私は夫と共にアセロラとマンゴーの栽培をしています。

近くに住む夫の両親は、農業には定年退職がないからいいと話し、体のためにいいからと、今も少しばかりの農業をしています。その合間には、2人でグラウンドゴルフに出かけたり、書道や踊りのサークルに出かけたりと楽しそうです。そんな両親を見るにつけ、生き生きと楽しく暮らすのは若者だけのものではなく、真の豊かさとはこういうものだと思えます。

ところで私は、男女共同参画というのは、なにも社会的なことだけではないと考えます。夫に農業の基礎から教えてもらったお礼に、私は夫に家事全般を教えました。夫の家事能力は、思いもかけず私が3ヶ月も入院したときに最大限に発揮されることになりましたが、今でも私の仕事がいっぱいだと見るや、洗濯物を干したりたたんだり、ごく自然に手伝ってくれます。

男子厨房に入らず、という言葉がありますが夫は、男子大いに厨房に入るべし、というタイプの人で、どんどん台所に立ってくれます。みそ汁の具にするつもりで私が切っておいた大根を、夫がチャンプルにしてしまったというハプニングも時々ありますが、娘と息子も一緒になって食事の仕度をする時間は、私にとってかけがえのないものです。

また、子供達が保育園のころから、入学式や卒業式は言うに及ばず、発表会や各種大会にも夫婦で出かけ、子供達に声援を送ってきました。子供の成長を一瞬たりともみのがすまいという思いからですが、そのおかげで共通の話題も増えたように思います。

私達は仕事においても日常生活においても、多

かれ少なかれ周囲の影響を受けているものです。ですが、決断を下すのは自分自身の判断です。決して他人や社会のせいにする事なく、人生は全て自己責任なのだということを念頭に置き、これからも夫や仲間と共に、生き生きと楽しく暮らしていきたいと思えます。

**破座真さん** 私は石垣島で生まれ、熊本で中高を過ごし、東京で大学を出て、そこで就職し、結婚しました。私が一人息子ということもあって石垣島に帰ってきました。去年、子供が生まれ、今は2人の娘がいます。

わが家の家事時間は1日の中で私が4時間、妻が6時間30分です。私自身、他の男性より多いとも少ないとも思いません。家事を同じ時間やっても、内容がとても大事だと思います。それに気をつけなければいけないことは、都合がいい時だけ家事をするというのはダメだと思います。妻が病気の時など、本当に必要なときに手伝うことが大事で、これがまさに共同ということだと思います。

最近、私はボランティアを始めましたので、以前より家にいる時間が少なくなりました。しかし、コミュニケーションが夫婦、家族間で低下したとは思いません。時間は工夫しだいであって忙しいからできないというのは、理由にならないのではないのでしょうか。

例えば、買い物や家事等の間にも、コミュニケーションを深めることはできるわけです。また、私は娘を保育園から迎えた後に、30分ほど娘と図書館に立ち寄るようにしています。そして、お互い読書を楽しみながら、その日の一日に園であった事などを話題にしながら、子供と会話をするように気をつけています。

このように、私はボランティアの時間、子供と接する時間、そして自分自身の時間をうまく使い分けるようにしています。私は社会の基本は家族だと思っています。特に、子供と接する時は男だから、女だからではなくて一人の人間として接するようにしています。これから中高生になっても、そのようなコミュニケーションを通して、男女が同等に社会に参画していく土台を学んで欲しいと願っています。

この世の中には、男性だけではできないことがたくさんあります。だからこそ男女共同参画社会が必要だと思います。それで、私は娘二人にも自分の能力、可能性にチャレンジしてほしいと思っています。今後は家族の絆はもとより地域社会、日本、世界レベルでの男女共同社会が重要だと思います。

最後に、人間がいきいきとして生きるためには次の3つのことが大事だと思います。まず始めに機会均等のススめ、つまり夫婦間における不公平感の解消であります。それで、家事は分担してやるのが大切です。次に、コミュニケーションのススめが大事で、心のずれ違いはタブーだと思います。三つ目は、やっぱりゆずりあいの精神を忘れてはいけません。思いやりが大切だと思います。私は、これらのことを念頭に置き、男女共同参画社会のまちづくりに協力していきたいと考えています。



講師兼コーディネーター 桃原一彦氏

# 女性講座いしがき2000が閉講

「自分らしく生きるために、あるがままの自分を見つめて、ありたい自分を探し確立する」  
をねらいとする女性講座が修了。第5回から閉講式までを紹介。

## 第5回

### 「介護保険と地域福祉」

講師：市介護長寿課課長 野国昌清

2015年には、4人に1人が高齢者となることが予想される。家族介護の9割が女性で、そのうち5割が高齢である。又女性の就労率がアップしたことで、家族介護制度から社会介護へ、行政の措置から利用者自身による選択ができる

ことが特徴。市内にも介護サービスを必要としている方は多い。元気なお年寄りを社会全体で育てていくことが大切です。

## 第6回

### 「私のキャリアプラン」～生き生きと働くために～

◆女性起業家が、自らの体験や抱負を語るミニシンポジウム。それぞれが自立して行く中で味わった女性ならではの、苦勞とそれを乗り越えた体験を紹介。

パネラー：前里和江(不動産業)、小底弘子(保育園経営)、高嶺幸子(織物業)、並里清子(鮮魚店経営)

コーディネーター：いしがきプラン地域推進委員長 仲吉八重

◆女性ということ以轻く見られることもあったが、性を楯にできる仕事ではないので、甘えを捨てて頑張ったつもり、悩んでいる暇は無かった。自立を阻む要因の一つは女性、女性の自立、成長を心から喜べる支援できるネットワークを創るべきと提言。(前里)

◆女性が何かを始めようとすると、男は笑っていた時代だった。女性の社会進出と、子育てを両立するには保育所が頼り、働く女性を支え、地域の子育てを支えることが各保育所に求められている。

地域の子育て支援センターになりたい。(小底)



◆ミンサーウエアを中心にいろんな商品を開発話し合いのなかからアイデアも生まれる。一人ひとりと接することで教えられることも多い。多くの人と付き合うことが自分を高めことだと思う。(高嶺)

◆19歳で結婚し、大家族の中へ、夫婦ゲンカの仲からアイデアが生まれ鮮魚店を経営。がむしゃらに働いたが、苦勞も好きな人(夫)のそばにいられたのでいつも楽しく過ごせた。経営者として、人を指導する前に、まず自分を磨き学習し、従業員の長所を見ながら楽しい職場づくりを心がけている。(並里)

◆まとめとして、4人に共通している点が、①やりたいことの特長を持っている。②努力家で実行力がある。③人と人とのつながりを大事にしている。

(仲吉 コーディネーター)



## 第7回

### 「女性の翼」研修報告

研修生：石垣美紀子さん

◆ドイツ・デンマークへの視察研修。女性の視点から見た高齢者介護、ベルリンの女性機関、フランクフルト主婦協会等で、日本とは違う点や学ぶべきことを報告。自由への教育で知られるシュタイナー学校について説明、～普通の学校が社会に併せて人間を作っているのに対し、この学校では人間があくまでも主体で社会の方が人間の本当に必要なものに併せる考えである。真の意味での自由を獲得できる人間教育が世界中の子供たちへ広がっている。と強調した。

## 閉講式



大瀬市長から修了証を交付され喜ぶ最年長の船道貞子さん

## 「いしがきプラン」 地域推進委員に 委嘱状交付



男女共同参画社会の実現をめざす石垣市の行動計画「いしがきプラン」の効果的な推進をはかるために設置された地域推進委員の任期満了に伴い1月25日、新委員24人に委嘱状を交付。委員長に小底弘子さん、副委員長に平地ますみさん、西表英樹さんが互選。同日第1回会議が開かれ、進捗状況の報告や意見交換を行い、今後も同プランの推進に努める事が話し合われました。

「かがやき 響き合う やいまの女たち」をテーマに、1月13日、14日の二日間 市民会館中ホールにおいて 石垣市女性団体ネットワーク会議主催の「第4回まるざーフェスティバル」が開催されました。

平和で豊かな社会を創り出すための女性を中心とした活動を一堂に展開、アピールし情報を共有するとともにネットワークの輪を広げ相互にエンパワーメントすることを目的に各団体とも、日頃の活動の成果をパネル展示や手作り実演コーナー等で、アピールしていました。

オープニングセレモニーでは、潮平実行委員長が「女性たちのズンブン（知恵）と地道な個々の活動全体が見えるのがまるざーフェスティバルです。21世紀は女性たちがこれまで蓄えてきた力を具体的に実現する世紀だと思う。女性の感性や感覚を生かした提言を出し合い多めに張り切って欲しいと思います」とあいさつ。2日目の14日には、「21世紀・自立に向けて 手をつなく やいまの女たち」をテーマに公開座談会が行われ、みんさー工芸館の大浜敏江さん、保育園園長の崎枝清子さん、花卉園芸家の照屋幸子さん、介護福祉士の館田末子さんが、それぞれの立場からの意見や提言を発表しました。

### 第4回

## まるざー フェスティバル 開催



おめでとう  
ございます

## 「現代の名工」に新 絹枝さん



藍染め一色の八重山ミンサー織りを伝統を踏まえながら独自の工夫と研究で地元で自生する植物の染料を利用した多色染めに成功。斬新な緋の図案や形、色彩などを工夫した作品を開発製作し普及。産業を活性化させた功績が認められ優れた技術者として労働大臣から卓越技能賞を受賞。

「この土地で生きて物を作ることの意義を大切にし今後も後継者とともに伝統の織物を守っていきたい。トントンの機織りの音、絶やすことなく命の続く限り織り続けていきたい」と穏やかな笑顔が素敵でした。

## 「コーラスあかようら」に県文化協会団体賞



“心に太陽を輝に歌を”のあいことばをモットーに八重山が誇る宮良長包の作品を意欲的に歌い続けている合唱団「コーラスあかようら」は1984年に結成。福祉施設訪問をはじめ各種イベントやチャリティーへの参加、県内外の諸団体との交流を重ね、台日親善コンサート、全沖縄おかあさんコーラスに出演する等、地域の文化活動の実績が認められ

2000年度県文化協会団体賞を受賞。昨年は結成15周年コンサートを開催。糸洲マサ会長は「歌う喜びと仲間を大切に、熟年女性の生きがいの場として歌い続けていきたい」と話していただきました。

# 悩むよりまず相談を



## 市民相談窓口紹介

相談内容	日時	相談員	問い合わせ
法律相談	毎週水曜・金曜日 午前9:30～午後12:00	弁護士	市民生活課 2-1253
行政相談	毎月第3火曜日 午前9:00～午後12:00	行政相談員	広報広聴課 2-1243
人権困りごと相談	毎月第 <sup>2</sup> 木曜日 午前9:00～午後12:00	法務局職員 家庭裁判所職員 人権擁護委員	総務課 2-1216
心配ごと相談	毎週木曜日 午後1:00～午後4:00	民生委員	社会福祉協議会 4-2211
家庭児童相談	毎週月～金曜日 午前9:00～午後5:00	大工 安 貝志堅多恵子	児童家庭 2-1704
青少年電話相談	毎週月～金曜日 午前8:30～午後5:00	宮良祐成 崎山周子	青少年センター 2-1030 2-1116



## 女性問題 キーワード ⑧

### 「リプロダクティブ・ライツ」とは

性と生殖に関する自己決定権をリプロダクティブ・ライツといいます。

例えば、子どもを産む・産まない、産むとしたらいつ・何人産むのかということを決めるのは、当事者である女性自身の基本的人権であるはずなのに、これまで十分には認められてきていません。

この自己決定権を確立するためには、安全で確実な避妊法の普及と望まない妊娠を人工的に中絶する権利、また望まない避妊を拒否できる権利等が保障されなければなりません。

「女子差別撤廃条約」も子どもの数や出産の間隔を自由に、かつ責任をもって決める権利を女性がもつこと」を明確にうたっています。

### 表紙紹介

まるぎーは、八重山方言で円座を意味する。老若男女の別なく円座に成って情報を交換し未来を語り合うことを象徴して命名した。

題字は仲吉八重さん（いしがきプラン推進委員）